



2015(平成27年)10月25日発行

発行/大阪大学医学部附属病院広報委員会(総務課)

住所/〒565-0871大阪府吹田市山田丘2-15

TEL 06-6879-5021

http://www.hosp.med.osaka-u.ac.jp

禁転載 (この紙面は再生紙を使っています)

がん化学療法の安全性と負担軽減をめざす

「オンコロジーセンター棟」

オープン!

病床数が倍以上となった化学療法室



開放的な交流スペース

がんに対する化学療法の進歩はめざましく、化学療法による治療を受けておられる患者さんが激増しています。本院は、患者さんが社会生活を営みながら、がん治療を続けられる「外来化学療法室」を平成16年に設置し、一日約40名を診療してきました。しかしスペースの関係で、化学療法が必要となる患者さんに対応できず、また検査室での

採血から各種検査室での診察、待合室までの動線も複雑で、待ち時間が長いという状況にありました。それらの問題を改善するため本院は、この9月7日に新しく「オンコロジーセンター棟」を開設しました。外来棟内を複雑に移動することなく、血液検査・診察・治療の全てを一つの棟内で一括して行うことで、患者さんの負担が軽減します。

新棟の1階には、がん患者さん専門の採血室と検査室があり、患者さんは殆ど待ち時間なしに採血を終え、同じ階の診察室で各診療科の専門医による診察を受けることができます。そして2階あるいは3階に移動して化学療法を受けます。化学療法専用のリクライニングシートベッドは、これまでの19床から42床に増設され、80名ほどの患者さんを治療することが可能となりました。

また、先進機器による化学療法法のチェックシステムを新たに導入し、患者さんの氏名や詳細な治療内容をパソコンで管理・確認するなど、リスクマネジメントも徹底されました。さらに、個々のリクライニングシートやベッドは、長時間の点滴に配慮してカーテンを備えるなどプライバシーにも配慮しており、患者さんはテレビモニターを覗きながら、リラクゼーションを享受できるなど快適な治療環境を用意しています。

新棟の4階には抗がん剤の調製に特化した調剤室も設けました。ここでは薬剤師が防

国際的な臨床検査の品質基準をクリア

本院がISO15189を取得しました

この度、臨床検査部・輸血部・病理部・放射線部および超音波検査センターでは、臨床検査の国際認定であるISO15189の承認を得ました。このことは、本院での臨床検査が国際的に統一された規格に適合していると評価されたことを意味しており、より高度な国際標準に基づく精度保証が担保されたこととなります。今後は、ISO15189の規格を遵守して検査体制において日々改善に努め、本院における診療に貢献して参ります。

本院が臨床研究中核病院に認定 質の高い臨床研究で、より良質な医療を提供



認定証を持つ金倉謙病院長と澤芳樹医学系研究科長

本院は、8月7日、西日本では今回唯一となる医療法上の「臨床研究中核病院」に認定されました。「臨床研究」とは、医薬品や医療機器の開発に必要な、質の高い臨床研究・治療を推進するため、世界レベルの臨床研究や医師主導治療の中心的役割を担う病院として医療法上に位置づけられるものです。「能力」施設「一人」などの厳しい要件を満たした医療機関のみが厚生労働大臣の認可を受けて承認されます。

本院は「能力」においては、過去3年間の特定臨床試験数が、自ら実施した件数が11件、多施設共同研究を主導した件数が4件、特定臨床研究に関する論文数が57件のほりま

「施設」においては、診療科が32、病床数が1086床、そして技術能力についてISO(国際標準化機構)による評価を受けた臨床検査室を備えています。「一人」については、臨床研究支援・管理部門に所属する人員数が65名のほり、認定に必要な全ての承認要件をクリアしています。

「これまでに本院の実績、質の高い臨床研究を実施できる施設、十分な人員、他の医療機関の臨床研究をサポートする能力が評価された」と認定申請を主導した竹原徹郎病院長補佐(消化器内科診療科長)は分析します。



ベッドにもテレビモニターを完備

期・若年成人ルームも設置しました。また3階には多様な診療科の医師・看護師などが集まり、治療方針などについて検討するためのカンファレンスホールも設置されています。

「点在していたオンコロジーセンターの関連部署を一つの棟に集約することで、多くの患者さんに、余裕を持って、より安全な化学療法を提供すると同時に、地域がん診療連携拠点病院(国指定)としての機能をさらに充実、強化していきたい」と野口眞三郎オンコロジーセンター長(乳癌・内分分泌科診療科長)は抱負を語りました。

新診療科長等ごあいさつ

●胎児診断治療センター長 奥山宏臣

近年の胎児診断技術の進歩により、出生後の治療を円滑に始めることができるようになりました。その一方、出生前から治療を始めることとなり、より良い子供が期待できる疾患も明らかになってきました。このような疾患の診療に当たっては、胎児を一人の患者さんとみなす、新たな診療体制が必要となります。胎児診断治療センターは、胎児の疾患に関わるすべての診療部門が連携し、生まれてくるお子さんとそのお母さんにとって、よりよい治療を提供することを目指します。

病院に認定されたことで、本院が一般的な医療から先進医療までを一貫してシームレスに受けられる病院だと認識していただけたこと嬉しく思います。また、竹原病院長補佐は述べています。

また、臨床試験への参加を希望される患者さんが本院に集約され、十分な管理体制のもとでデータ収集を行うことで臨床研究がさらに集約的・効率的に実施できます。他の医療機関が希望する臨床研究に関しても、実施計画や倫理審査、データ解析などに語りました。

看護師 アシスタント 募集中!!

優しい医療、適える医療

経験者～ブランクのある方、復職希望の方、歓迎します。 随時募集中!

詳しくは阪大病院ホームページ「看護職員の募集」をご覧ください。

●問合せ先: 阪大病院総務課人事係 tel 06-6879-5026

http://www.med.osaka-u.ac.jp/pub/hp-nurse/recruit/index.html

小児科

子どもを取り巻く環境や、成長を見越した診療を重視



分野のサブスペシャリティ(基本領域)から、さらに専門分化した領域の専門医を揃えることで、高度な専門性を保ちながら、総合的な視点で病児を診療しています。

当科は、「胃腎代謝」「内分泌」「血液腫瘍・免疫」「臨床神経」「神経代謝」「臨床遺伝」「発達障害」「睡眠」「栄養発育」「循環器」「新生児」「臨床免疫」の10臨床グループにより、小児医療の幅広い分野をカバーしています。そして各

が、将来、抗がん剤の影響や副作用の軽減、生活の質の向上、患者さんごとのニーズに合わせた診療の提供、さらには、病児の成長を見越した対応です。例えば小児がんの治癒率は高くなっています。抗がん剤の影響や副作用の軽減、生活の質の向上、患者さんごとのニーズに合わせた診療の提供、さらには、病児の成長を見越した対応です。

ホスピタルミニ・ニュース TOPICS

病院でプラネタリウム



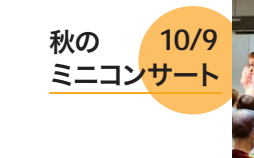
7月24日、小児医療センターで移動プラネタリウムの上映会が開催されました。室内に20名ほどが入れるエアドームが設置され、参加した入院中の子供たちや保護者が、映し出された美しい星空を楽しみました。

病院見学会報告

9月24日、一般市民の方を対象とした病院見学会が今年も開催されました。臨床検査部や薬剤部など、普段は立ち入ることのできない病院内部を見学し、参加者からは「実際に現場で働いている方の話を聞いてうれしかった」「敷居が高いと思っていましたが、とても細かい所まで気を配っておられ、感心しっぱなしでした」などの声をいただきました。



7/30 一日看護師体験



10/9 秋のミニコンサート

市民公開フォーラム

「がん診療を支える多職種専門家たち」

- 参加者募集
○日時:平成27年12月5日(土)午後1時~3時30分
○場所:大阪大学医学部講義棟A講堂
○募集人数:240名(先着順)※定員になり次第〆切
○申込期限:11月26日(木)【必着】参加費無料
○講演内容:
1.はじめに -オンコロジーセンター棟の設立にあたって-
2.がん登録ってなに?がん登録からなにが見えるの?
3.AYA世代談話室 -つなぐが治療をささえる-
4.がん相談支援センターとは -扉はいつも開かれています-
5.抗がん剤のお話 -うまく使って効果を最大限に-
6.外来でのがんの治療について -より安心に、快適に-
7.質問コーナー
○申込方法:FAX、メールまたは葉書に必要事項(①氏名、②郵便番号、③住所、④電話番号、⑤性別、⑥年齢、⑦参加人数(4名まで可))を明記のうえ、下記へお申込みください。
※本院では番号非通知の電話・FAXは受信できませんので、頭に186(番号通知)をつけておかけください。
※車いす利用者など、支援が必要な方は予めお問い合わせください。
●宛先:〒565-0871 吹田市山田丘2-15
大阪大学医学部附属病院総務課広報評価係
●FAX:06-6879-5019
●E-mail:ibyousoumu-kouhyo@office.osaka-u.ac.jp
TEL:06-6879-5020, 5021
※決定通知は参加の可否を葉書でお知らせいたします。

より良い紙面づくりのために、阪大病院ニュースへのご意見、ご感想をお待ちしております。
ibyousoumu-kouhyo@office.osaka-u.ac.jp

誰もが理解したIT操作... 誰もが理解したIT操作... 誰もが理解したIT操作...

医療機器を保守管理



「医療機器のお医者さん」
各部へ貸し出された数は月平均1200台を超え、8年前のデータと比べると5倍以上です。機器はすべてコンピュータでデータベース化され、購入から廃棄、貸出・使用履歴、保守点検・修理履歴などがいつでも確認できるようになっています。

「医療機器のお医者さん」
いわば「医療機器のお医者さん」の役割を担っています。病棟内を巡り、使われている医療機器が正しく作動しているかなどを点検するのも大切な任務です。点検するものももちろん、現場にいるいろいろな職種スタッフからの質問にも、医師や看護師向けのマニュアルづくり、講習会などを通じて、医療機器を扱う

MEサービス部

エンジニアリングで命を守る 「医療機器のお医者さん」

人工呼吸器や血液浄化装置、血圧計、内視鏡、電気メスなど、本院では、小さな道具から大掛かりな装置まで、毎日さまざまな医療機器が使われています。特によく使用されるものや、生命維持に関わる医療機器については、いっしょに安全管理を行っているのが、MEサービス部です。

「医療機器のお医者さん」
各部へ貸し出された数は月平均1200台を超え、8年前のデータと比べると5倍以上です。機器はすべてコンピュータでデータベース化され、購入から廃棄、貸出・使用履歴、保守点検・修理履歴などがいつでも確認できるようになっています。

病院食アンケート結果

6月に病院食について、アンケートを実施しました。満足度の項目では、80%以上の方に普通以上の評価をいただきました。また、「退院後にご自宅でも病院の食事を参考にしたい」と回答された患者さんは一般治療食で75%、特別治療食で84%でした。「退院後に病院食で参考にしたい項目」としては、一般治療食で1位 味付け、2位 献立(メニュー)、特別治療食では1位 味付け、2位 主食の量でした。退院後も参考にいただける病院食を目指して努力してまいります。

『おすすめ御膳シリーズ』第四弾! 栄養マネジメント部長おすすめ



今回は、検食を始めて10年の下村伊一郎栄養マネジメント部長が、味に太鼓判を押す「阪大オリジナルカレー」を、フタを開けた瞬間「びっくり、ほっこり、にっこり!」していただけるように夏野菜で笑顔に飾り付けました。患者さんからは「野菜も多くて美味しかったです!」カレーが食べたかったから嬉しい。カレーの顔もかわいい。こんな日にあたるなんてラッキー!「メッセージを読むと元気にならない」と、思っています。思わず笑顔になるようなご意見をいただきました。

夏野菜のスマイルカレー
●献立:夏野菜のスマイルカレー、フロコリーのソテー、キャベツの酢の物、フルール